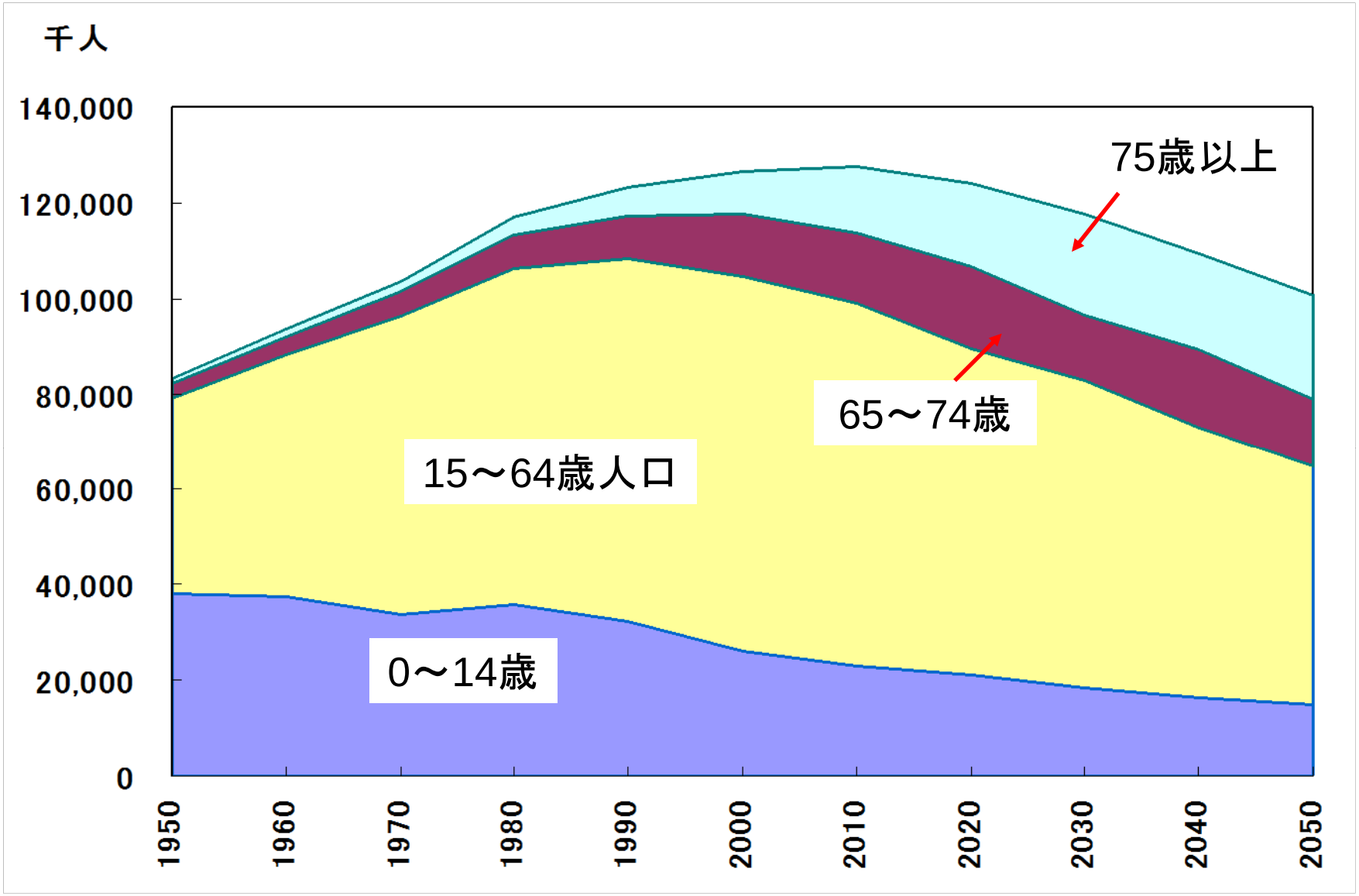
高齢社会と心理学

東京大学総括プロジェクト機構
ジェロントロジー寄付研究部門
http://gerontology.jp
秋山　弘子

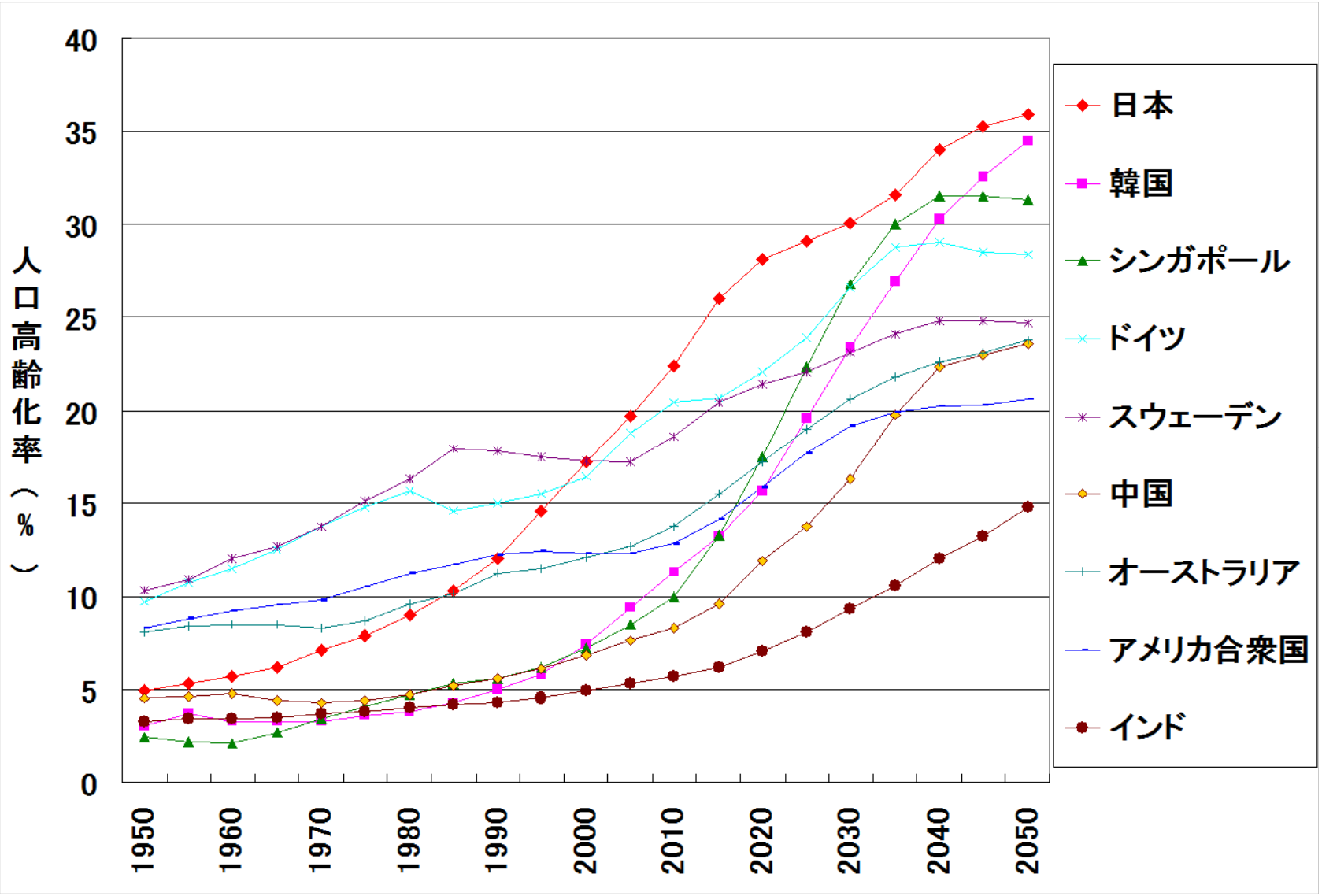
学術俯瞰講義２００８年５月２２日

‡:このマークが付してある著作物は、第三者が有する著作物ですので、同著作物の再使用、同著作物の二次的著作物の創作等については、著作権者より直接使用許諾を得る必要があります。

日本における人口構成の推移（1950－2050）



世界の人口高齢化率の推移（1950－2050）



「ジェロントロジー」って何？

高齢者や高齢社会全般に関わる諸課題を研究対象とする学際的学問分野

老年学の歴史（1）

老年医学

寿命をどこまで延ばすことができるか？

･･･生理的老化の原因の解明

成人病の克服

老年社会科学

人口の高齢化の社会制度、経済、医療機構への影響

老年学の歴史(2)

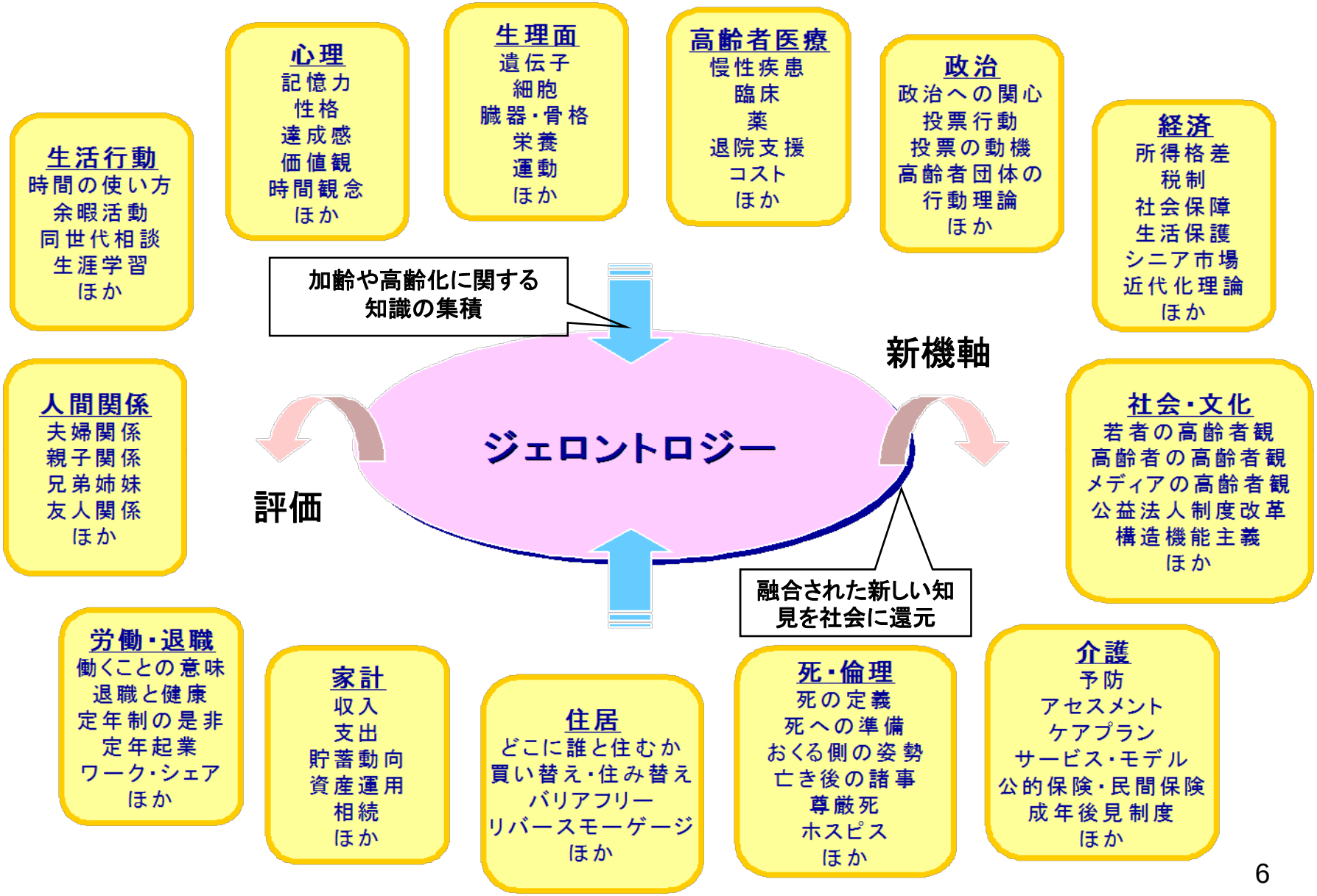
◆生活の質(Quality of Life)の追求

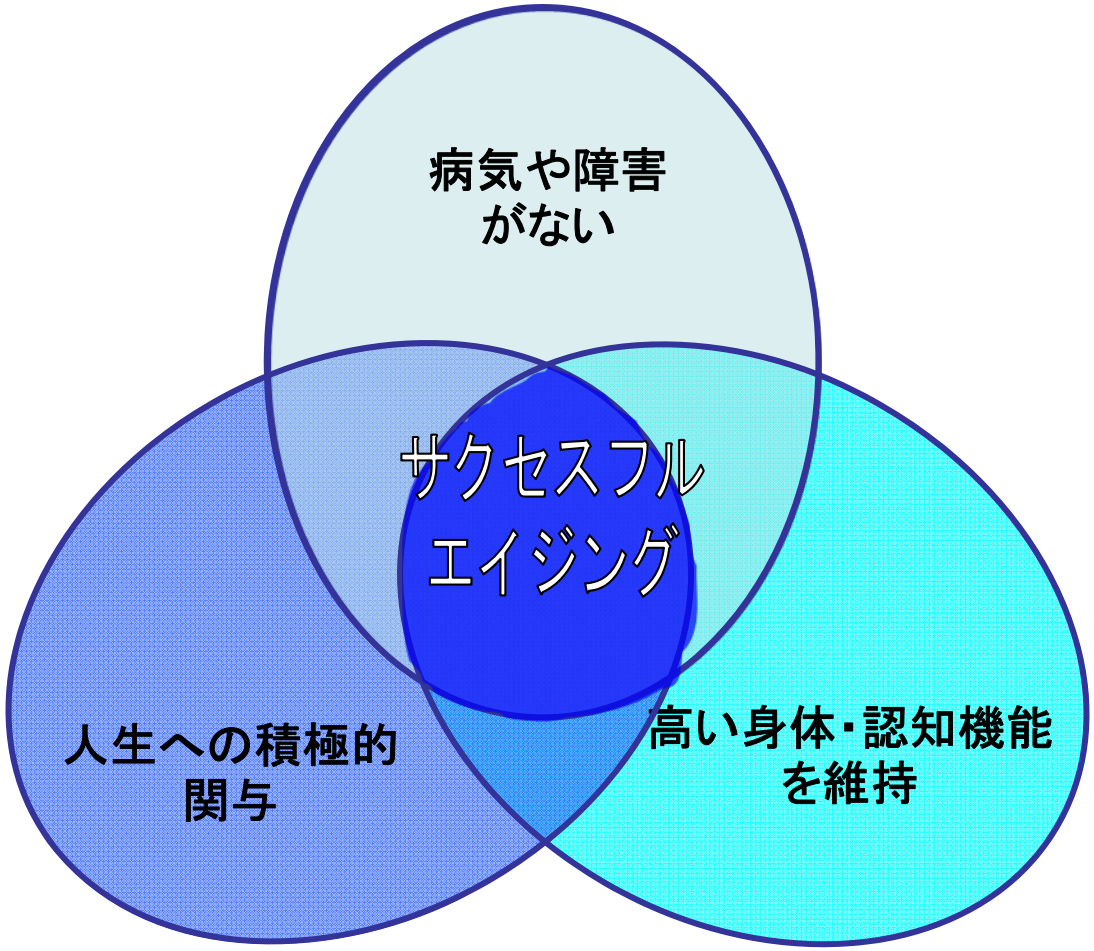
Successful Aging

◆学際的学問としての老年学(Gerontology)

医学、看護学、生物学、経済学、心理学、
社会学、社会福祉学、法学、工学、建築学

ジェロントロジーの学際性





サクセスフル・エイジングの条件（Rowe & Kahn, 1987)

Successful Aging の理念

自立して生産的であること

- 身体的自立
- 経済的自立
- 精神的自立
- 社会貢献

多くの不可能が可能に

…ボールを追う。少年の心で。（神戸新聞2004/09/15）
高齢者サッカースクール・リーダー　大重　博光さん（６４）

ここに挿入されていた図表は
著作権処理の都合上、削除い
たします。

…コンビ復活。意地でも直したる。（神戸新聞2004/09/14）

カメラ修理　石川　芳秀さん（70）、鎌田　清一郎さん（84）

ここに挿入されていた図表は著作権処理の都合上、削除いたします。

…宝の箱を手に入れた。感性は20代。（神戸新聞2004/09/13）

CGアーティスト　細谷タカ子さん（74）、柳原サユリさん（74）

ここに挿入されていた図表は著作権処理の都合上、削除いたします。

娘さん・お孫さんを訪ねてのロサンゼルス

‡　画像提供：株式会社　エスピーアイ　あ・える倶楽部

東京大学　総括プロジェクト機構
ジェロントロジー寄付研究部門開設記念シンポジウム
「健康寿命100歳を実現する学際科学」 於：安田講堂

人生の区分

第1期　　子ども
第2期　　大人
第3期　　老人

人生の区分

第1期	子ども
第2期	大人
第3期	前期高齢者 (Third Age)
第4期	後期高齢者 (Fourth Age)

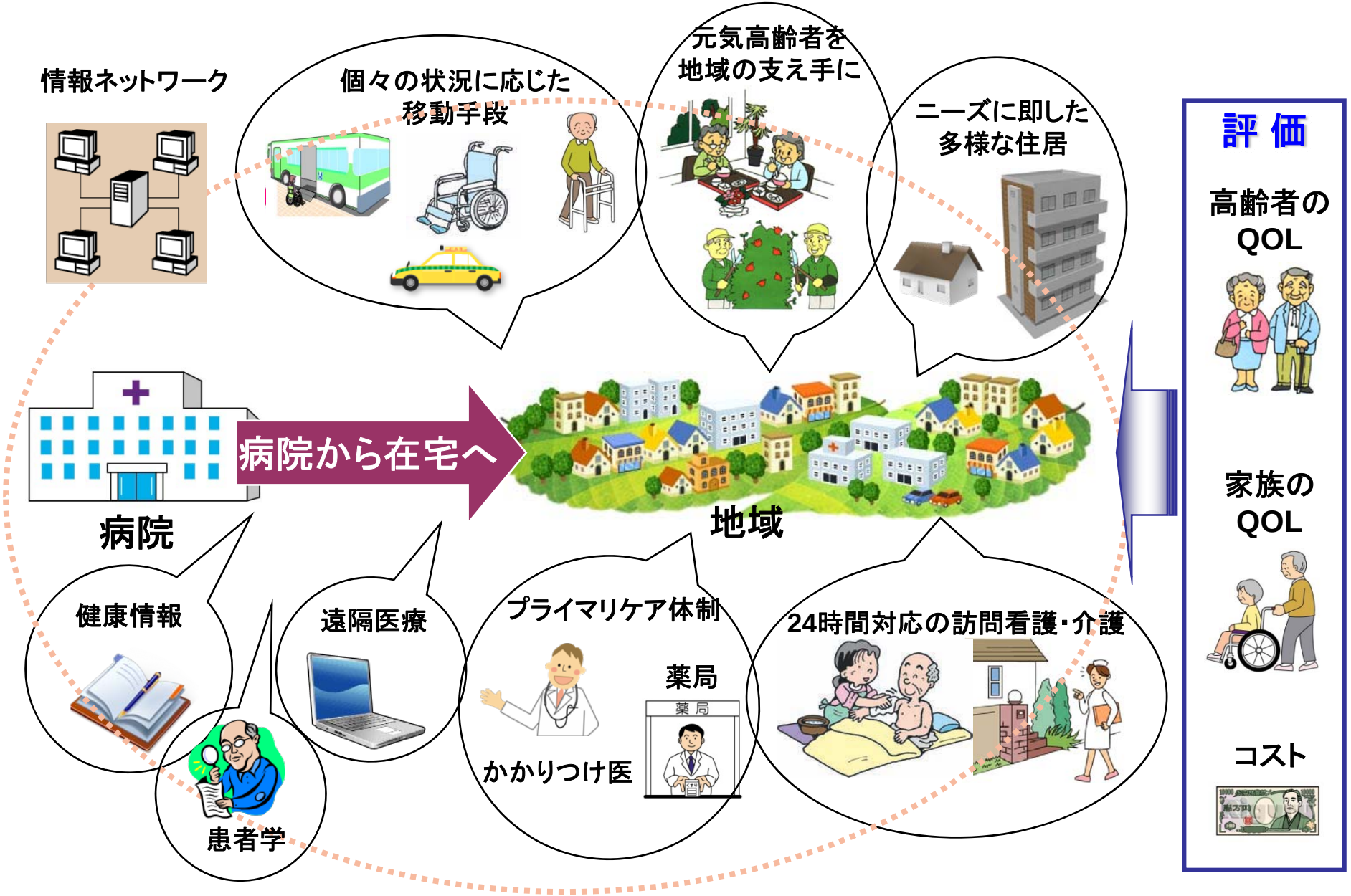
従来の‘Successful Aging’の問題点

- 「自立して生産的であること」のイデオロギー化
- 中年期を人生の最後まで押し延ばすことがゴール
- 生活の個別化・人の繋がりの希薄化

  個食 → 孤食

後期高齢期 (Fourth Age) を射程に入れた Successful Aging とは？

Aging in Place :住み慣れた地域で自分らしく生きる

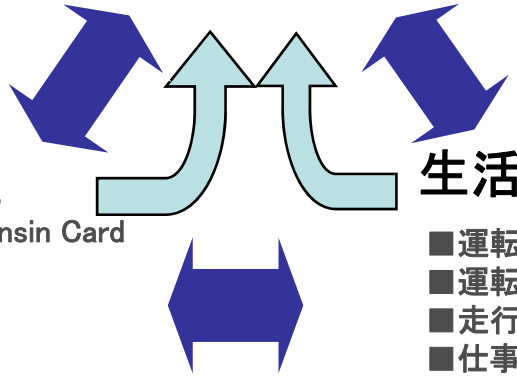


高齢者の移動に関する学際的研究

個人因子

運転特性

■ハンドルの切り始め
■アクセルオフ
■ブレーキオン
■ウィンカーオン
■目視行動



身体特性

■WCST（Wisconsin Card Sorting Test）
■複合反応
■歩行能力
■バランス能力

生活特性

■運転頻度
■運転開始年齢
■走行範囲
■仕事での運転
■事故経験

環境因子

車両特性

■乗降のしやすい車
■メータ等の見やすい車
■視界の広い車
■うっかりミスを支援してくれる車

交通・地域特性

高齢者が運転しやすい環境

■道幅の拡大
■高齢者優先道路
■高齢ドライバーを受け容れる住民意識

運転を断念しても生活を維持できる環境

■コミュニティバス
■ディマンドバス
■スペシャルトランスポートサービス
■低床ノンステップバス
■駅施設のバリアフリー化

高齢層が政治を動かす

ここに挿入されていた図表は著作権処理の都合上、削除いたします。

朝日新聞（2008年4月28日）より ”民主・平岡氏が当選”

マーケティング：高齢者市場へ

ここに挿入されていた図表は著作権処理の都合上、削除いたします。

朝日新聞（2007年2月3日）より ”「団塊ライフ」商機”

ここに挿入されていた図表は著作権処理の
都合上、削除いたします。

日本経済新聞2001年5月9日３８面より

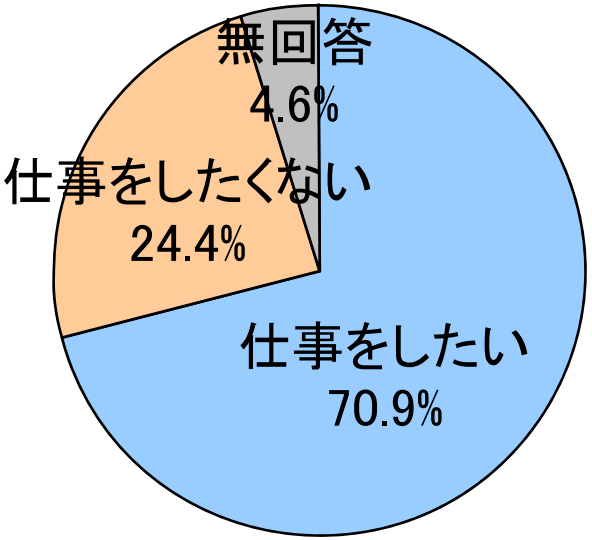
”引きこもり　6割が大人”

ここに挿入されていた図表は著作権処理の都合上、削除いたします。

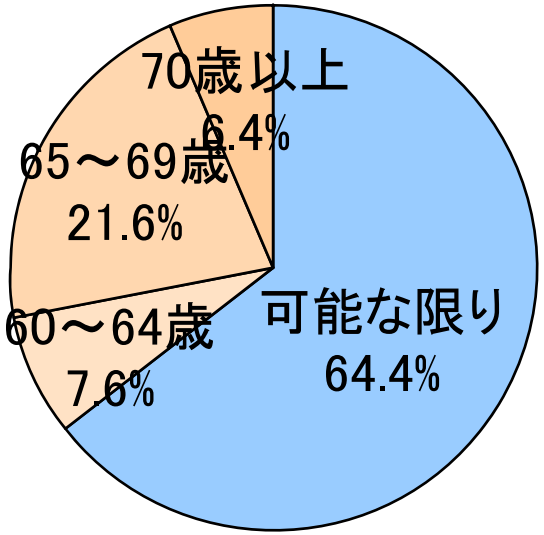
日本経済新聞2006年12月20日より

”「60歳以降も仕事」 7割”

60歳以降の仕事の希望



いつまで仕事をしたいか

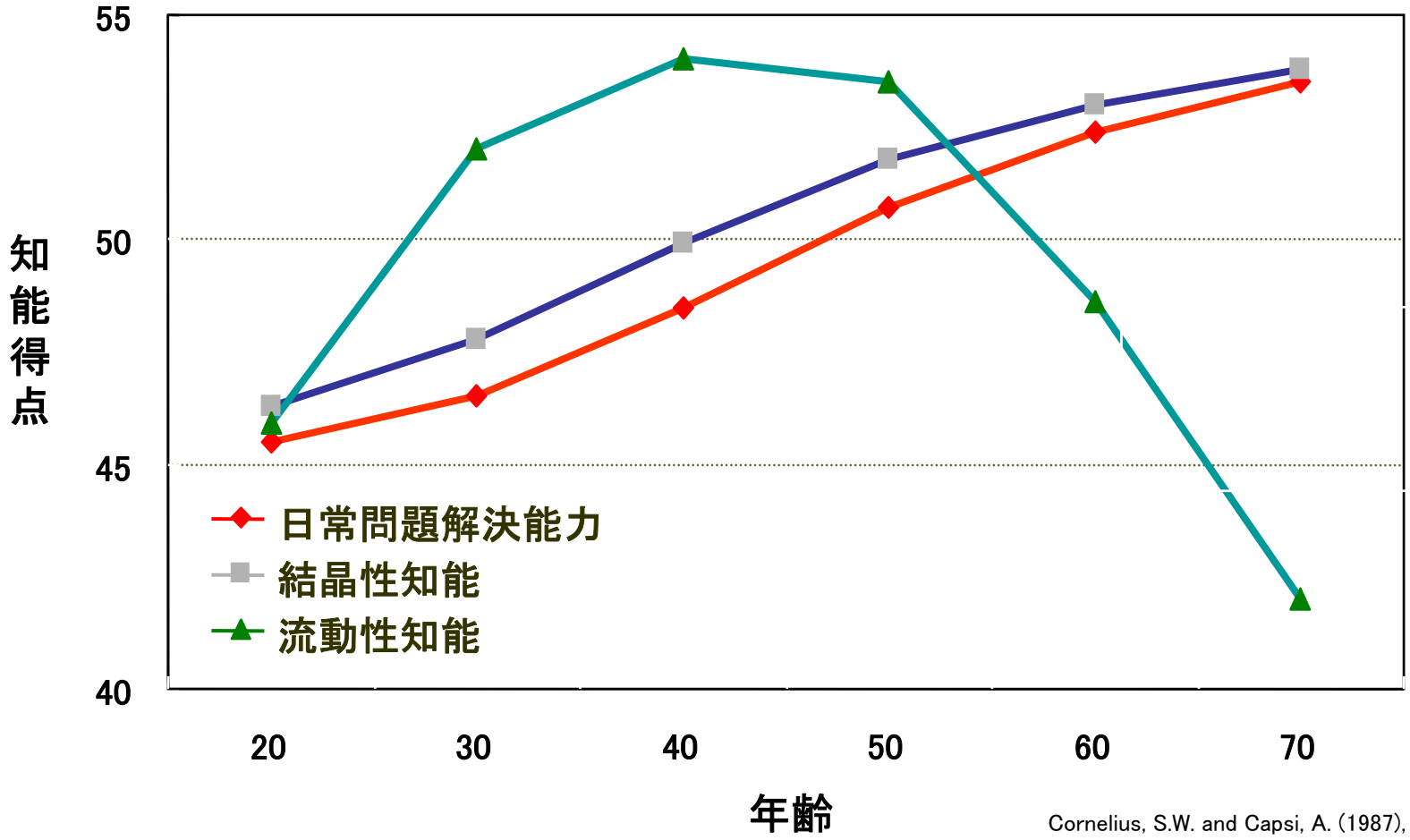


知能とは？

生活の中で生じてくるさまざまな問題を
うまく処理していく能力

知能得点の種類別の年齢による変化

Copyright 1987 by the American Psychological Association. Reproduced with permission. The official citation that should be used in referencing this material is *Psychology and Aging,* vol. 2, Cornelius S. W. and Capsi A. , “Everyday problem solving in adulthood and old age.” The use of APA information does not imply endorsement by APA.



Cornelius, S.W. and Capsi, A. (1987), “Everyday problem solving in adulthood and old age.” Psychology and Aging, 2, p150, Figure 5を改変

流動性知能と結晶性知能

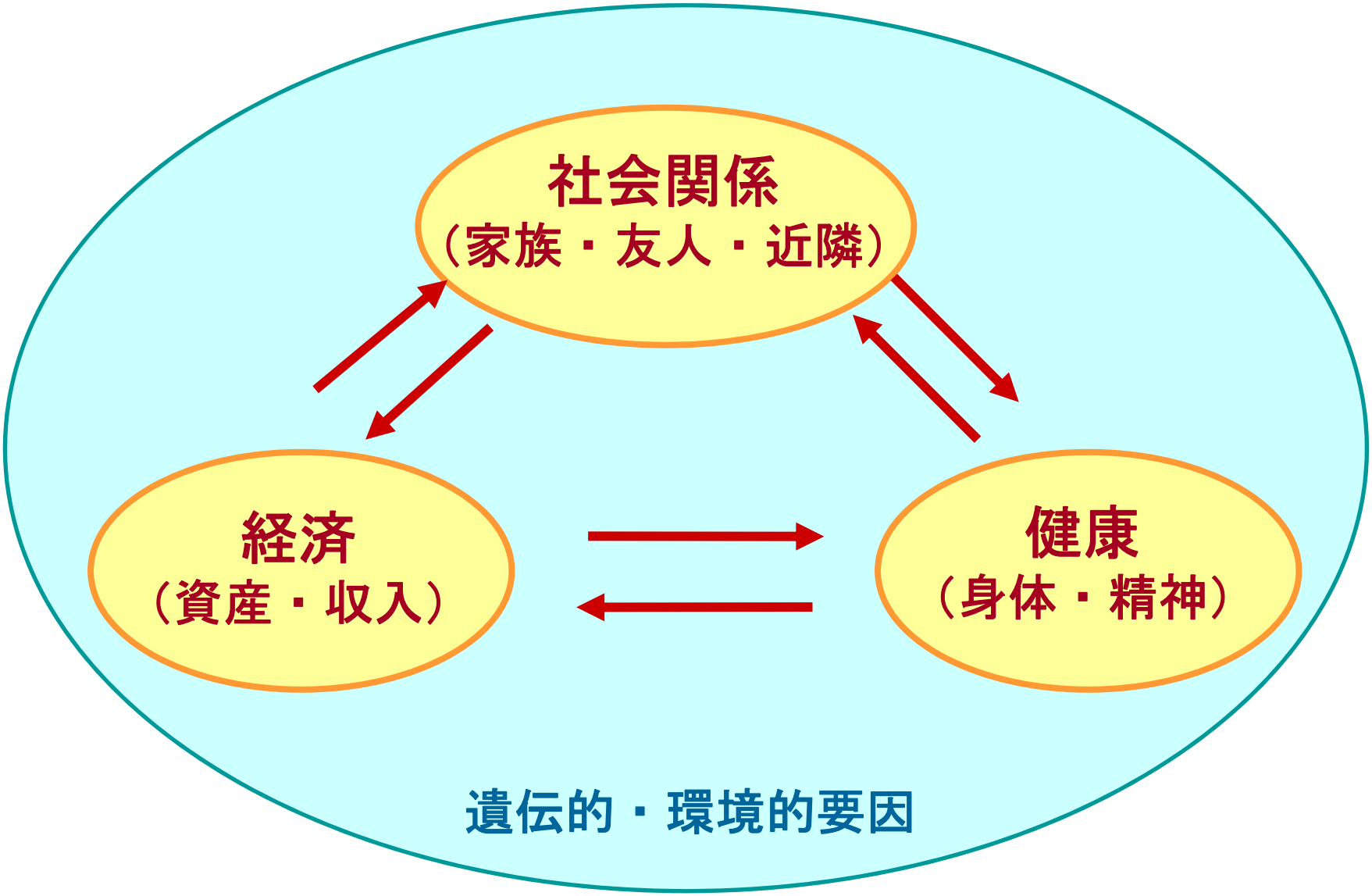
- **流動性知能:**
  新しいことの学習や新しい環境に適応するために必要な問題解決能力
  - 脳の基盤との関連性が強い

- **結晶性知能:**
  蓄積した学習や経験を生かす能力
  - 学校での教育だけでなく，日常生活や仕事上の経験などとの関連性が強い

高齢者の知能研究からの知見

- 多次元性
- 多方向性
- 柔軟性
- 大きな個人差

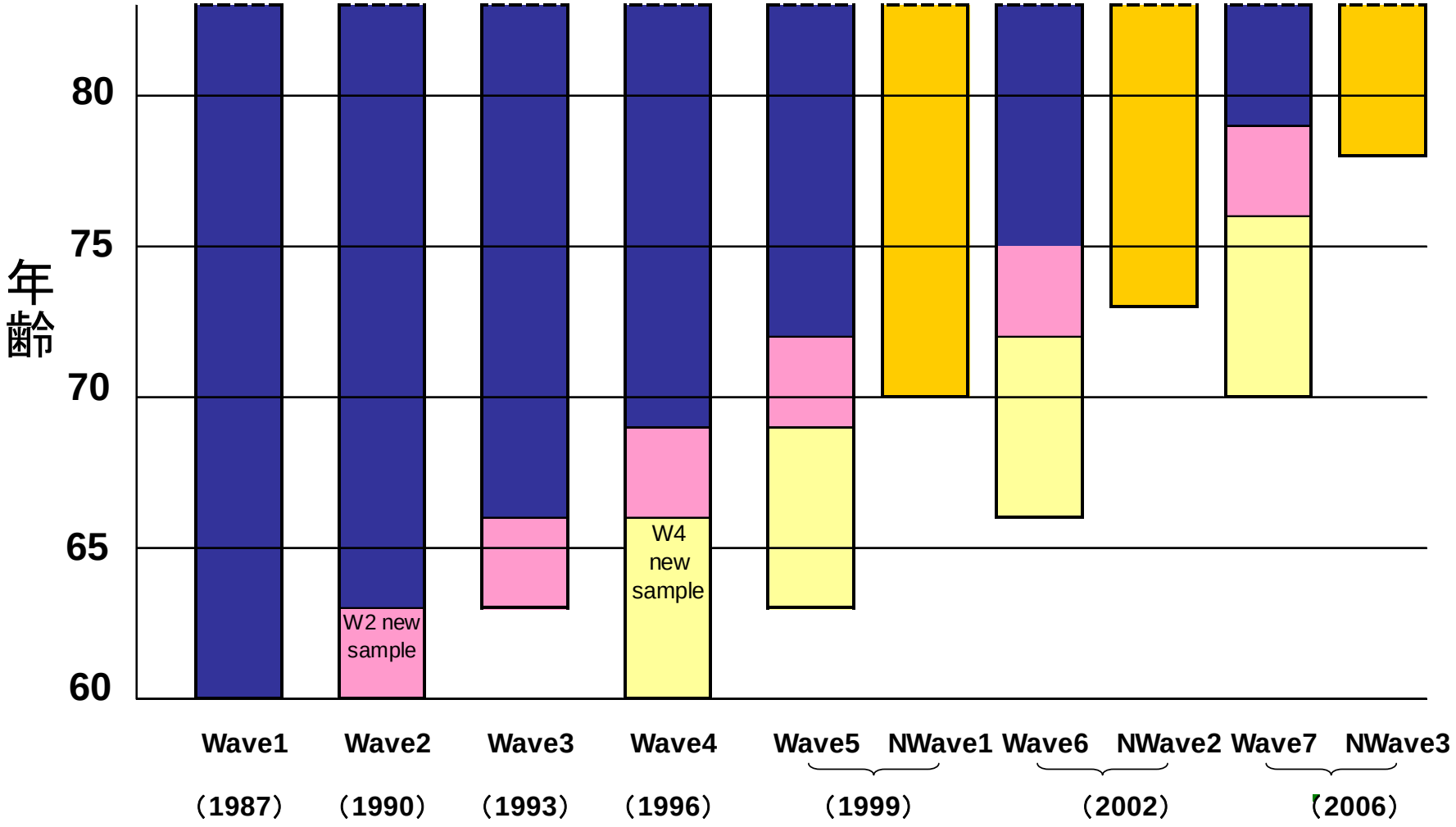
全国高齢者パネル調査研究



パネル調査年

1次調査	1987
2 次調査	1990
3 次調査	1993
4 次調査	1996
5 次調査	1999
6 次調査	2002
7 次調査	2006

調査サンプル


年齢
80
75
70
65
60
W2 new sample
W4 new sample
Wave1
Wave2
Wave3
Wave4
Wave5
NWave1
Wave6
NWave2
Wave7
NWave3
（1987）
（1990）
（1993）
（1996）
（1999）
（2002）
（2006）

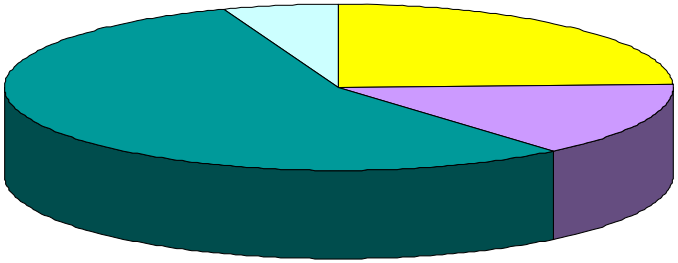
調査年

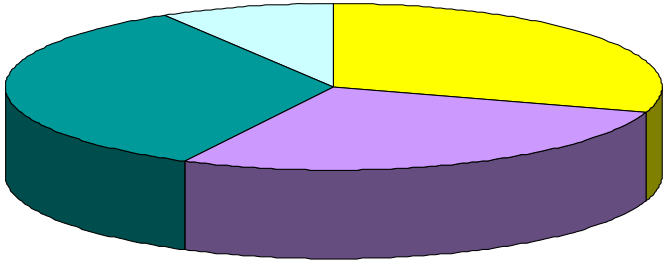
1次調査	1987	15 年間
2 次調査	1990	
3 次調査	1993	
4 次調査	1996	
5 次調査	1999	
6 次調査	2002	
7 次調査	2006	

15年後の健康状態

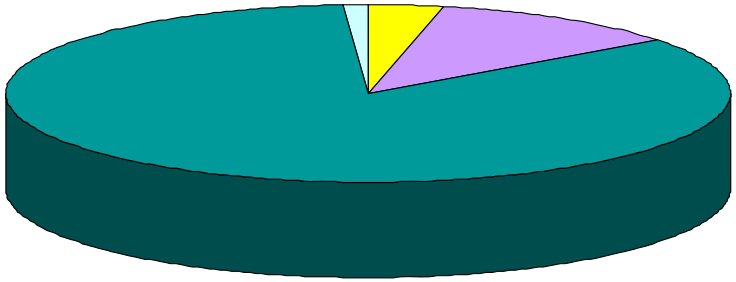
男性　　女性

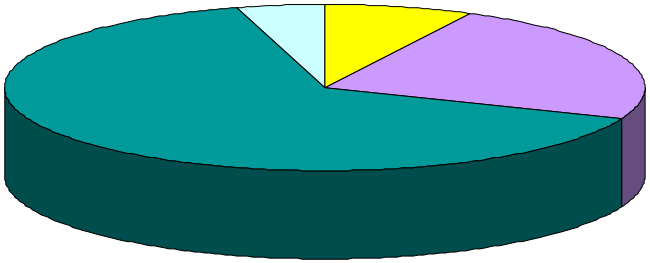
1987年に障害なし (N=1963)





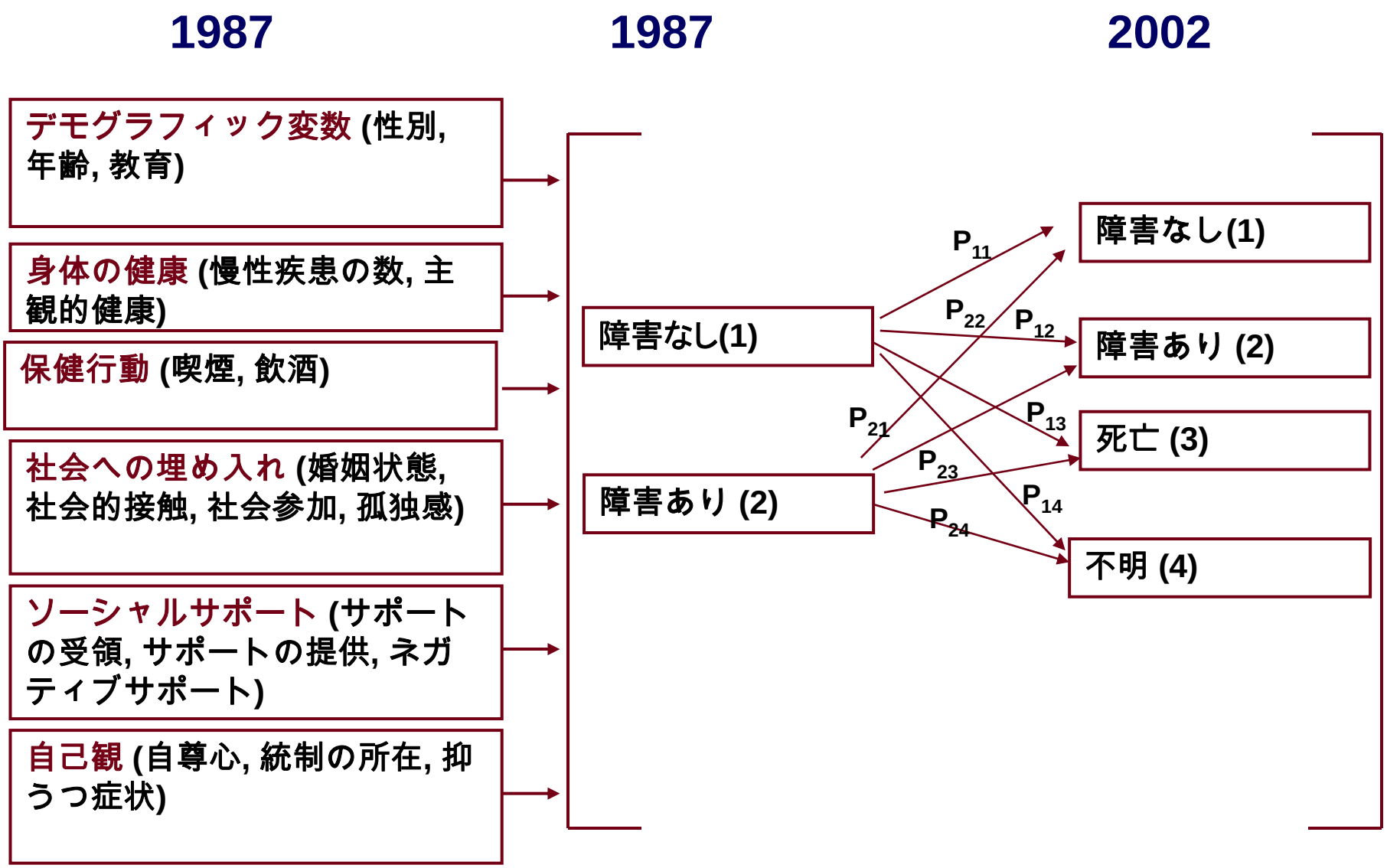
1987年に障害あり (N=221)





障害なし　障害あり
死亡　不明

15年後の健康度と関連する要因は？



15年後の健康度と強く関連する要因

1987 ‘障害なし’の高齢者

2002	男性 (N=804) 障害あり / 障害なし		男性 (N=804) 死亡 / 障害なし		女性 (N=947) 障害あり / 障害なし		女性 (N=947) 死亡/ 障害なし	
年齢	1.1394	***	1.2318	***	1.1783	***	1.2798	***
教育	0.9767		0.9567		1.0243		0.9966	
病気の数	1.1375		1.1625		1.1098		1.2480	*
主観的健康	0.8361		0.7049	+	0.8544		0.9475	
喫煙の有無	1.0470		1.9717	***	1.5585		1.8439	*
飲酒量	0.9929		1.0002		1.0130		0.9874	
飲酒量^2	1.0001		1.0000		0.9995		1.0001	
婚姻状態	1.4964		0.6413		1.2153		1.0219	
社会的接触	1.0306		1.0945		1.0546		1.0226	
社会参加	1.0584		0.5955	**	1.0463		0.9458	
孤独感	1.5948	*	1.5323	*	1.2734		1.0880	
サポート受領	1.0973		1.0365		1.0668		1.0200	
サポート提供	0.8947		0.8781		0.9259		0.8711	
ネガティブサポート	1.7609	*	1.4862		0.8693		0.9853	
自尊心	1.1913		1.2897		0.6883	*	0.8271	
統制の所在	1.1201		0.9291		0.7730		0.6623	*
抑うつ症状	0.7533		0.8443		1.1285		2.2175	*
Likelihood ratio	1540.80				2144.07			

+ p<.10, * p<.05, ** p<.01, *** p<.001.

１５年後の健康度と強く関連する要因

男性

団体・グループへの参加

例：自治会、趣味・スポーツ・学習のグループ、
ボランティア団体

殊に配偶者との死別を経験した男性にとって重要

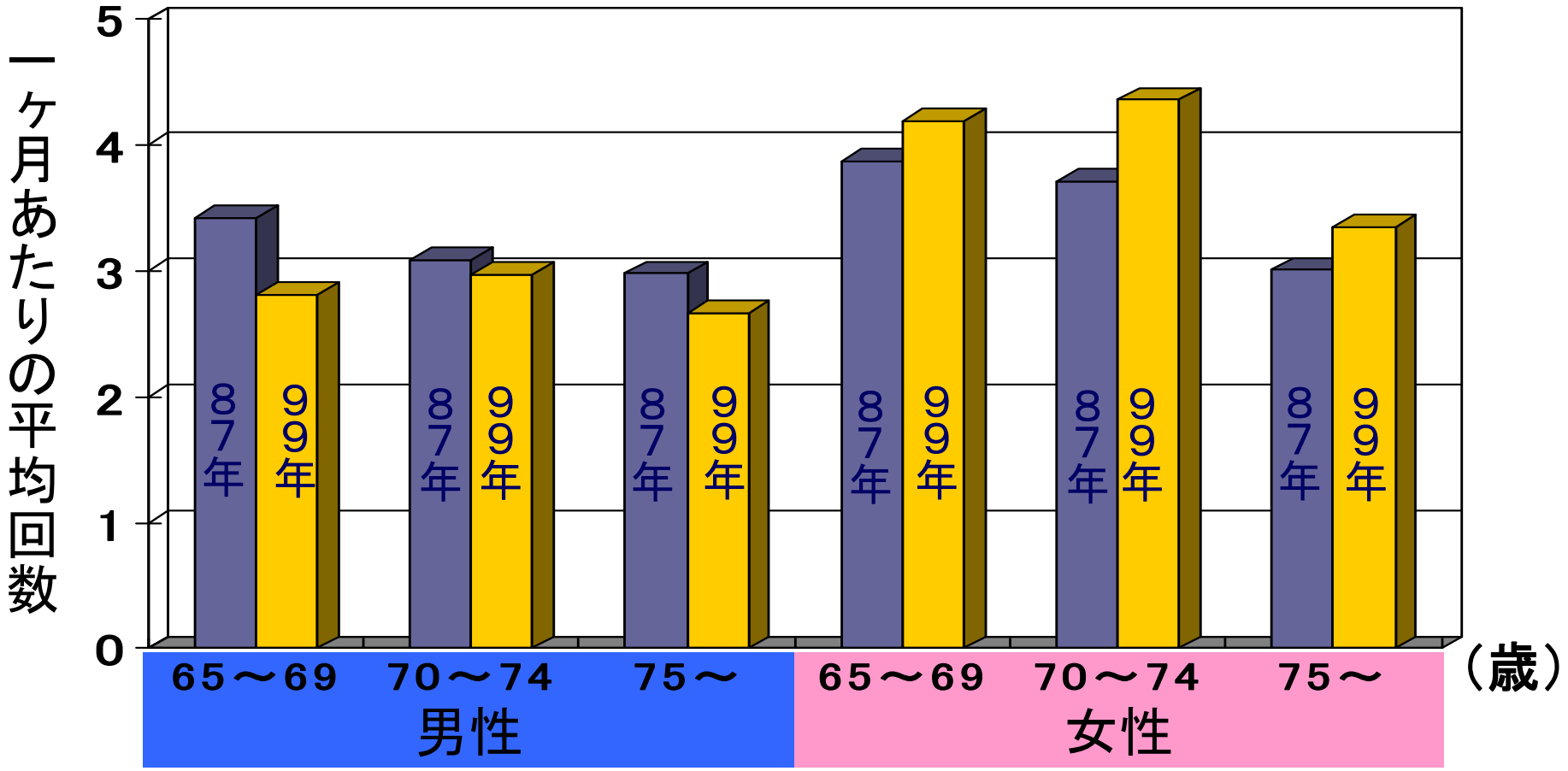
１５年後の健康度と強く関連する要因

女性

精神的な自立

自分で判断し、行動できる

友人・近所の人・親戚との対面接触



「学部横断型教育プログラム：ジェロントロジー」とは

プログラムのねらい

「ジェロントロジー」とは、高齢者や高齢社会の諸課題を解決するために生まれた学際的学問です。医学、理学、工学、法学、経済学、教育学、心理学などの幅広い領域を包含します。

2015年には4人に1人が65歳以上という超高齢社会を迎える日本では、専門分化した学問だけでは対応が難しい複雑な問題が生じてきています。

ジェロントロジーを学ぶことは、将来どの専門領域に進む上でも非常に有用です。

あらゆる分野を目指す学生の参加を歓迎します。

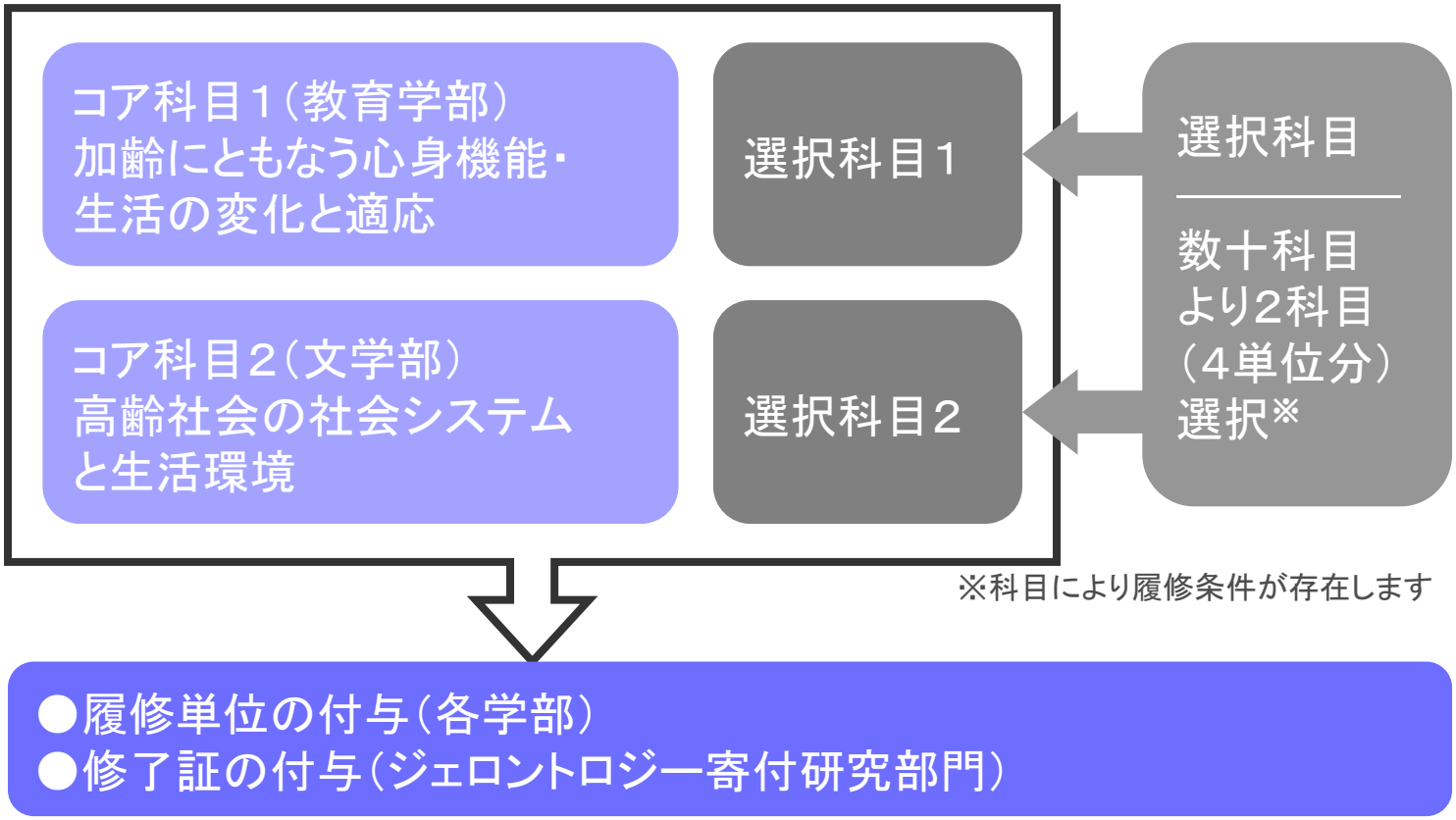
プログラムの対象および構成

対象

学部3～4年生および大学院生（修士課程及び一部の研究科の博士課程）

※大学院生は、各研究科規則の定められた範囲において、指導教員や専攻長の許可を得て、学部科目を履修単位とすることができます。

構成



コア科目1／加齢にともなう心身機能・生活の変化と適応

学部／教育学部
学期／夏学期
講義題目／加齢にともなう心身機能·生活の変化と適応
授業科目／教育心理学特殊講義
単位／2単位
時限／木曜5限（16:50～18:30）
評価／出席状況及び学期末のレポート提出
責任教員／南風原、武藤、遠藤

No	月日	担当者	所属	職位	テーマ
1	4|17	小宮山　宏 甲斐　一郎	医学系研究科	総　長 教　授	知の構造化とジェロントロジー イントロダクション
2	4|24	大内　尉義	医学系研究科	教　授	老化の理論
3	5|1	遠藤　利彦	教育学研究科	准教授	生涯発達の理論
4	5|8	遠藤　利彦	教育学研究科	准教授	エイジングの研究方法
5	5|15	武藤　芳照	教育学研究科	教　授	身体機能の変化と適応
6	5|22	秋下　雅弘	医学系研究科	准教授	疾病・障害と ヘルスプロモーション
7	5|29	伊福部　達	先端科学技術 研究センター	教　授	身体機能を補う福祉工学機器
8	6|5	高山　緑 （ゲスト）	慶応義塾大学	准教授	知的機能の変化と適応
9	6|12	小林江里香 （ゲスト）	東京都老人 総合研究所	主　任 研究員	社会関係の変化と適応
10	6|19	白波瀬佐和子	人文社会系 研究科	准教授	Third Age（前期高齢期） の課題
11	6|26	川村　匡由 （ゲスト）	武蔵野大学	教　授	団塊世代のエイジング
12	7|3	村嶋　幸代	医学系研究科	教　授	Fourth Age（後期高齢期） の課題
13	7|10	清水　哲郎	人文社会系 研究科	教　授	死をめぐる諸問題

コア科目2／高齢社会の社会システムと生活環境

学部／文学部
学期／冬学期
講義題目／高齢社会の社会システムと生活環境
授業科目／社会学特殊講義
単位／2単位
時限／水曜5限(16:50～18:30)
評価／出席状況及び学期末のレポート提出
責任教員／武川正吾

No	月日	担当者	所属	職位	テーマ
1	10|8	秋山　弘子	ジェロントロジー 寄付研究部門	教　授	イントロダクション
2	10|15	白波瀬佐和子	人文社会系 研究科	准教授	人口学・人口統計
3	10|22	濱口桂一郎 （ゲスト）	政策研究 大学院大学	教　授	雇用政策
4	10|29	岩本　康志	経済学研究科	教　授	年金・税制
5	11|5	武川　正吾	人文社会系 研究科	教　授	介護・福祉
6	11|12	武川　正吾	人文社会系 研究科	教　授	地域福祉
7	11|19	甲斐　一郎	医学系研究科	教　授	保健・医療
8	11|26	大原　一興 （ゲスト）	横浜国立大学	教　授	住宅政策・街づくり
9	12|3	樋口　範雄	法学政治学 研究科	教　授	高齢者関連法
10	12|10	井口　高志 （ゲスト）	信州大学	講　師	家族介護・施設介護の臨床
11	1|14	鎌田　　実	工学系研究科	教　授	居住環境・移動手段
12	1|21	伊福部　達	先端科学技術 研究センター	教　授	福祉機器の開発と利用
13	1|28	秋山　弘子	ジェロントロジー 寄付研究部門	教　授	柏市等の高齢者関連サービスの 見学および担当者へのヒアリング